



博多あん通信

発行元
博多あん(安全)・あん(安心)リーダー会
連絡先
〒812-0882
福岡市博多区麦野5丁目22番6-505号
代表幹事 小森 勝輝

2021年(令和3年)

1月1日号
<No.39>

明けましておめでとうございます。

2005年結成されたリーダー会も、気付けば16年目を迎え活動量・信用度も増してきました。しかし、コロナ禍では啓蒙・啓発活動が少なくなり、昨年はリーダー会の役割等を振り返る時間がありました。改めて原点である「防災士とは」を考えるために防災士教本(2020年版)を見てみると、私が学んだ2005年版にはなかった「防災士の基本理念」が明文化されていました。

- 1) 自助—「自分の命は自分で守る」: 日頃から身の回りの備えを行い防災・減災に関する知識と技能を習得し、絶えずスキルアップに努めます。
- 2) 共助—「地域・職場で助け合い、被害拡大を防ぐ」: まわりの安全が確保され余裕があれば進んで地域・職場で救援・支援活動に取り組みます。
- 3) 協働—「市民、企業、自治体、防災機関等が協力して活動する」: 多様な組織、団体との連携を心掛けるとともに、地域に密着した防災意識の啓発、防災訓練等の活動を通じてお互いに顔の見える関係を作り上げ事前に備える地域社会作りにも貢献します。(防災士の基本理念抜粋)

また、防災士に期待される役割の中で、「家庭や職場、地域で何をしたら良いかではなく、何ができるのか・何をすべきか主体的に能動的に考え取り組むべきである」と明記されています。

リーダー会の活動を振り返ると、正に防災士の基本理念・役割に準じた活動を継続していると自信をもって言えます。今後も切磋琢磨し、防災・減災、そして縮災(災害の被害から早く抜け出すこと)を新たなテーマに、元気にパワーアップし頑張りましょう。(代表幹事 小森 勝輝)

令和2年度 研修会 ～コロナ禍における避難所の開設・運営～

12月13日(日)あすみにて、福岡市役所 市民局防災・危機管理部 地域防災課 小田素久係長を講師にお迎えし、「コロナ禍における避難所の開設・運営」をテーマに研修会を開催し、リーダー会46人が参加しました。

「避難所における新型コロナウイルス感染症対応マニュアル」をもとに、災害時の対応について講演いただきました。今はコロナ禍で活動がままならない状況ですが、新しい情報を常に学びながら、自分や家族の備えとともに、地域で防災啓発活動をしていくことが大切だと改めて思いました。会員からはオンライン参加を望む声があり、時代のニーズに応じた開催方法を取り入れていく必要があると感じています。



(西支部 久保 千景)

リーダー会 16期生の声

以前から校区内で男女参画推進会を活動の中心に据え、防災推進では避難所運営を担当し、活動していました。しかし、現実には分からないことばかりで、防災避難訓練の際にリーダー会の皆さまがテキパキと指導される姿を見て、私も何かお役に立つようになりたいとの思いで講習を受けました。コミセン和白で開催された東支部定例会・歓迎会に参加した際には、行政の方も参加されており、しっかりと行政と繋がっているのだと心強く思いました。

今後、講習会や研修会等に率先して参加し、実務を学び、少しでも校区のお役に立つよう精進したいと考えています。皆さま、ご指導よろしくお願ひいたします。(東支部 江頭 みち代)

台風10号に伴う～感染症で気付かされた当たり前の取り組み 城南支部～

堤地区自治協議会は、台風10号に備え、青パトによる避難の呼びかけや、堤小学校体育館避難所設置に取り組み、当日は26世帯、58名の避難がありました。(内訳は以下のとおり)

自治会長、民生委員の報告によると、避難行動要支援者名簿登録者のほとんどは、在宅避難を選ばれたようです。理由としては、①避難所が遠すぎる②感染症流行下に避難所で過ごすことに不安を感じるという回答で、2つの課題が明らかになりました。

令和2年9月6日 台風10号 堤地区避難状況			
堤公民館	6世帯	12名	
堤小学校体育館	9世帯	16名	犬1匹
長尾中学校体育館	3世帯	13名	
シャローム教会	2世帯	6名	
いこいの森	6世帯	11名	

- ① 指定避難所への集中を避け、分散させる。
- ② 在宅避難者が多くなると、大量の在宅避難者への支援も必要となる。

これを踏まえ、今後堤地区自治協議会は、①自治会集会所や地区会館・民間施設と協議して、指定外避難所を設置し、整備すること。②堤地区内にある7か所の集会所・会館を在宅避難者支援拠点として位置づけ、年次計画を立て整備することに取り組みたいと思います。密を避け清潔を保つことは、いつでも避難所の鉄則ですね。(城南支部 神野 定明)

台風10号に伴う避難所開設について報告～南支部～

9月5日(土)午前3時、塩原校区災害対策本部長(自治協議会会長)から、台風10号に伴い①6日15時から避難所を開設すること②災害対策会議を開催することの連絡が入りました。13時からの災害対策会議で、災害時要援護者の支援、戸建て・木造の家への避難呼びかけチラシポスティング、青パトによるアナウンス、町内の危険物の片付け等を決め、各町が行動開始。

9月6日(日)14時、区役所職員(2名)と校区災害対策本部長、防災会長でコロナを加味した部屋割りや運用を協議し、感染者や濃厚接触者は南市民センター2階に、その他は南体育館に案内することが決まりました。15時に避難所開設。パーテーションとマットで区切った体育館で39人が不安な一夜を過ごすことになりましたが、4名の自治会長らが泊まり込み避難者の不安緩和に努めました。

9月7日(月)8時、青パトで校区内の安全を確認し、避難者は退所。後日検証会議を重ね、行政と校区の連携が上手くいったこと、日頃の行動を共にしている自治連合会の存在が大きかったことは評価されましたが、突然襲ってくる地震には今回の対応は通じないことも実感し、災害時要援護者支援の難しさが浮き彫りになりました。(南支部 川添 繁美)



支部活動報告(紙芝居)～早良支部～

早良支部は、今年度より単独事業にて「防災紙芝居」を始めました。10月20日(月)西新校区曙ふれあいサロンにお招きいただき、披露させていただきました。防災紙芝居に加え、高齢者が避難するにあたって注意したいことの講話や非常トイレの紹介も行いましたが、いずれも大変好評をいただきました。

今年は、新型コロナウイルス感染症予防のため、単独事業の数は減りましたが、新しいことに挑戦し、早良支部としては1歩前進した年となりました。(早良支部 松本 一郎)



博多市民プール職員とDIGを実施～博多支部～

12月10日（木）博多市民プールにて、18歳から60代迄の世代や業務の異なる16名の職員を対象にDIGを実施しました。

コロナ禍の為、グループワークは行わずスクール形式を取り入れ、参加者全員が通勤圏も通勤手段も異なるなか、様々な視点から地域の強みや弱みを発表し共有する良い機会となりました。



業務中の直下型地震発生時の想定では、近隣地域の一時集合場所であることや公共のプールという施設柄、職員全員が普通救命講習を受講していることもあり、共助意識の高さを感じました。設備もソーラーパネルや救護用品の豊富さ、貯水量の多さなどの施設ならではの強みを再確認しました。一方で、長時間停電への備え、インターネットやLINE等の不通による情報収集が困難になる場合に備えた電池式ラジオの必要性、利用者を安全に避難させることだけでなく、職員が施設から避難する場合の想定などは、新たな気づきへと繋がりました。

今回のDIGを通して福岡市のLINEやツナガル+、災害伝言ダイヤル171の活用を学び、減災を意識した職員が揃った施設となったのではないのでしょうか。（博多支部 今泉 薫）

台風10号に伴う活動報告～東支部～

「9月6日に台風10号が特別警戒警報レベルで福岡を通過する」との予測に基づき、福岡市では初めて小学校・中学校に避難所開設の指示がでました。

9月4日に避難所開設の連絡が各校区に入り、これを受けて市内各校区は避難所運営に着手することになるのですが、各自治協議会の対応がまちまちで、それに危機感を感じた校区から「避難所運営に関する勉強をしたい」と東支部に相談が入りました。

西戸崎校区を皮切りに、八田校区、箱崎校区や和白校区へ、組織の在り方や広報、避難所運営の基礎知識について研修及び訓練を実施しましたが、どの校区も自主防災会は組織されていたものの、「毎年防災訓練を実施して来たが、有効に機能しなかった」との反省に基づく、自治協議会からの緊急要請でした。

開催校区からも対応を報告いただき、参加者からの質疑応答と意見交換を行い、組織編成の重要性と開設のための道具や備蓄品の準備の大切さを訴えました。特に、避難者に分かり易いピクトグラムを紹介し、準備態勢を整えていただくようお願いしました。（東支部 城下 邦芳）

台風10号に伴う避難所開設について報告～中央支部～

9月4日（金）中央区役所より自治協に「草ヶ江公民館に避難所開設」の連絡があり、区職員と一緒に小学校の防災倉庫より備品を公民館に運搬し、避難所開設の準備をしました。

9月6日（日）当日高潮警報発令のため、場所を草ヶ江小学校に変更。熱中症防止の必要もありエアコンがある教室を使用することにし、受付や案内の動線とゾーニングを確認しました。自治協、町内会、自主防メンバー11名で役割分担を行い、15時より受付開始。手指消毒、体温測定、受付名簿に記入後、教室に案内しました。避難者数は9世帯12名、発熱者0名でした。

9月7日（月）7時半から避難者は帰宅を開始し、9時過ぎには現状復帰清掃完了しました。避難所の変更が当日であったため、広報の仕方や徹底など情報の伝達が課題として残りました。また、地震など突然の災害に対しては、連絡の周知、避難所の開設、運営について検討の余地が多く、継続してスキル取り組む必要があると実感しました。（中央支部 平山 光典）

台風10号に伴う避難所開設について報告～西支部～

今回、玄洋校区で初めてとなる小学校を使用した避難所が開設されました。避難所開設は前日に広報されたため、当日大きな混乱は見られませんでした。

玄洋小学校は江ノ口川が隣接しているため2階以上の教室を使用しましたが、机等があるため1室2家族～4家族までとなり、最終的な避難者は43世帯83名でした。

運営に関しては市役所の職員が対応しましたが、大規模地震などの災害であれば、あらかじめ避難所運営を地域が行う体制を整えておく必要があると痛感しました。（西支部 正本 博士）

避難所サポートチーム福岡研修会報告

8月22日（土）第3回研修会をあすみんにて「コロナ禍における避難所運営」をテーマに行いました。会場の定員を30%以下にするため参加者43名を2回にわけ、内閣府の「新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所運営のポイント」、レスキューストックヤード発行「避難所運営の知恵袋」の2種類を参考資料にしてチームのレベル合わせをいたしました。コロナ禍では他県への派遣要請は当面ありませんが、福岡市内での発災時には派遣要請の可能性もありますので、要請に対応できる体制作りが急務な課題と分かりました。（博多支部 小森 勝輝）

トピックス ～これからの活動にご興味がある方は事務局までご連絡ください～

*各種講座活動状況(12月26現在)

<出前講座>実施予定講座数1回、<地域活動アドバイザー>実施予定講座数8回
<防災教育アドバイザー>実施予定講座数0回、<単独事業>実施予定講座数7回 合計16回
*市民総合防災訓練の中止等殆どのイベントが中止となり、活動する機会もありませんでした。

*活動部会(16期生対象)

研修会を2月21日（日）10:00～12:00実施予定 詳細は後日連絡

*研修部会

12月13日（日）「あすみん」16:00～17:00 終了後交流部会&16期生歓迎会は中止

*「避難所サポートチーム福岡」

8月22日（土）10:00～13:00 あすみんで実施

*博多あん・あんリーダー会16期生入会状況（修了生45名）

東支部：4名、博多支部：3名、中央支部：2名、南支部：6名、城南支部：1名、
早良支部：2名、西支部：1名 合計：19名

*Q&A

Q：リーダー会の活動のなかで、水曜会がありますがどんな活動ですか？

A：水曜会は、会員相互で最新の情報交換や講座の事前勉強会などを行っています。

毎月第1～第3水曜日19:00から「あすみん」で開催していますので、雑談する感じでお出かけになりませんか。お待ちしております。（事務局長 平山 光典）

編集後記 令和2年は新型コロナに始まり、年末・年始にかけて更に感染拡大の様相を呈した年でした。人類の歴史はウイルスとの闘いの歴史といわれています。私たちはまさに今、その真ただ中にいます。リーダー会にとっても厳しい年になりましたが、一日も早く元の日常が返ってくることを願って、皆で頑張りましょう。 広報部長 陣内 圀弘（東支部）